

講社祭1

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に慎んで申し上げます

親神様は教祖を通し「世界一列を救けるため天降った」と仰せられました。私たちは早くから教祖の道具衆としてお引寄せ頂き洵に感謝の念に堪えません。その中にも今日の吉き日はこれの△△△△宅の月次祭の日柄に当たりますので、只今から一手一つに明るくたすけづとめを勤めさせて頂きます。おふでさきに、このみちはどふゆう事にをもうかな。

このよをさめるしんじつのみち

とありますが、全人類が待望する陽気世界の太ふしんに必要な心は総て誠真実であり、その具体的な行いはひのきしんにをいがけ、おたすけの動きであります。又同時にその最も大切な心使いの基は、いんねんの自覚から湧き上がるたんのうの笑顔でなければならぬとお教え頂いております。

真柱様は「今年は天理教教校開校百年の年であり、おぢばに於ける各種信仰の集いに新しい方々を次々と送り出し、人救けの実働の歩みを更に加速せねばならない」と強調されました。

今後は改めて自らの信仰の元一日から今日に至る長年の丹精を思い起こし、まずはおつとめの充実を目指し家族親族を始めとし、近隣社会の人々に心新たに真実を傾けて参りますが、私達の馳せ巡る先々に不思議不思議の理が見え、思召し通りの陽気ぐらしの輪が更に広く大きく拡がって参りますよう、お導きの程を一同と共に慎んで御願ひ申し上げます。